



東陽病院 平井真紀子 産婦人科医師

健康への

メッセージ

シリーズ⑦

子宮癌について

がん検診で

早期発見

早期治療

光町のみなさん、こんにちは。今回は、婦人科の癌検診についてお話ししたいと思います。現在子宮癌の検診が広く行われていますが、子宮癌は二種類あつて、子宮の頸部（けいぶ、腔側の出口）に発生する子宮頸癌と子宮の内腔に発生する子宮体癌（子宮内膜癌）があります。一般的に子宮癌の検診という場合は、子宮頸癌の検診を行います。両方の検診をする場合もあります。

子宮頸癌の検診の方法は、スミアテストと呼ばれる子宮頸部の細胞を擦過（こすつてとる）して調べるもので、この意義は癌を初期もしくは無症状のうちに診断するだけでなく、前癌状態（癌に変化してゆく可能性はあるが、そうならない場合もある段階）であることがわかる時もあります。いずれの場合も、もう少し多くの細胞を調べる組織診（バイオプシー）が必要となる場合があります。近年、子宮頸癌の発生要因としてウイルス（ヒューマンパピローマウイルス）の関与が示唆されていますが、この場合、定期的な検診により、適切な治療時期、方法を判断することができま

す。早期に診断、治療を行うことが良いのは言うまでもありませんが、治療方法もその患者さんの状態やご希望により、選択できる場合もあります。

さて、次に子宮体癌のお話をします。子宮体癌は子宮の内腔に発生するため、頸癌に比してやや検査が困難であると言えます。子宮内に小さな細胞を採取する器具を入れて検査を行います。内腔は超音波や内視鏡を併用しなければ見ることができないために、これらのガイド下に検査を行うこともあります。子宮体癌は癌の中では良性の方にはいる癌ですが、最近日本では増加の傾向にあります。ホルモン（エストロゲン）が病態に関与していることが示唆されていますが、この癌にもやはり前癌状態と言える段階があり、検診によつてこの時期から経過をみることも、理想的です。

最後に卵巣癌の検診についてお話しします。卵巣癌の検診はあまり普及していませんが、これは外から細胞を調べるのが簡単でなく、血液検査（腫瘍マーカー）でも早期に高い診断率を得ることができません。超音波（もしくはCT、MRI）の検査では卵巣が腫大しているかどうかはわかりますが、良性、悪性の判定は困難な場合があります。よつて現在ではいろいろな検査を行い、総合判定でもしくは経過も考慮して治療の方針を決定しています。

いずれの癌にも言えることですが、癌は早期に診断、治療した方が治療率が高い病気ですから、そこに検診の意義があると言えます。

※平井先生は、10月1日から千葉県がんセンターに異動しました。

◆東陽病院の休日当番日

10月19日(日) 午前9時〜午後5時

（医師2名が待機、来院の際は事前に電話をしてください）



ほんの

＝町立図書館＝

☎043311

今月の新刊展示

秋風に誘われて……紅葉狩りに出かけませんか。
『紅葉を楽しむ』秋の行楽におすすめの本を展示します。



- | | |
|----------------|-------|
| 「失楽園」 | 渡辺淳一 |
| ※発売以来大人気。 | |
| 「鉄道員(ぼっぼや)」 | 浅田次郎 |
| 「梅桃が実るとき」 | 吉行あぐり |
| ※ドラマ「あぐり」の原作本。 | |
| 「少年H」 | 妹尾河童 |
| 「ふたり」 | 唐沢寿明 |
| 「女たちのジハード」 | 篠田節子 |
| 「ターン」 | 北村 薫 |

◎ご希望の本が貸出中の時には予約できます。
(電話でも受付しています)

10月の休館日

6日(月)・10日(祝)・13日(月)・20日(月)・27日(月)